

会 議 録

会議の名称	西東京市子育て支援計画策定委員会（第8回）
開催日時	平成15年4月17日（木） 午前10時から正午まで
開催場所	田無庁舎5階502会議室
出席者	（委員）森田委員長、有澤副委員長、安藤委員、片山委員、川又委員、武田委員、出川委員、古荘委員（欠席 田口委員、本間委員） （事務局）牧野部長、富田課長、田島 （コンサルタント）高屋、下村 （傍聴者）なし
議 題	（1）会議録の承認について （2）西東京市 平成15年度予算について （3）子ども家庭支援センターについて （4）（仮称）こどもの総合支援センターについて （5）今後のスケジュールについて （6）子育て支援計画にかかる課題について （7）その他
会議資料	1 会議録（第7回 西東京市子育て支援計画策定委員会） 2 資料 第8回 策定委員会に向けた事前検討資料 3 資料 平成15年度 西東京市子育て支援計画策定スケジュール（案） 4 資料 子ども家庭支援センターの設置概要 5 資料 （仮称）こどもの総合支援センター構想（案） 6 資料 西東京市広報 平成15年度 予算のあらまし
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
	議題1 会議録の承認について
森田委員長	各委員から修正の申し出がなかったため、そのまま承認することにしたい。
	議題2 西東京市 平成15年度予算について
事務局(田島)	平成15年度予算は、「ファミリー・サポート・センターの設立」が738万円、「病後児保育室の設立」が1,224万円、「子ども家庭支援センターの建設について検討」が1,769万円、「こどもの発達支援センターの建設」が900万円となっている。 ファミリー・サポート・センターと病後児保育室は、継続事業なので説明不要と思われるが、子ども家庭支援センターとこどもの発達支援センターについては新規事業のため、事務局から説明する。
	議題3 子ども家庭支援センターについて
事務局(富田)	昨今、子どもに関する相談が多く、それを主に子ども家庭支援センターで受けることになる。開設が平成15年7月1日のため、すでに準備室を設け、スタッフ4人をそろえて事業の準備を進めている。場所はコール田無の3階を利用する。ピッコロハウスとビデオルームを改装して同センターにする。 実施事業は資料のとおりだが、相談業務を行うとともに、ピッコロハウスについては親子がふれあう遊びの場とする。コーディネーター機能として、地域の事業である一時保育やファミリーサポート事業につなげていくとともに、乳幼児交流事業や子育て大学講座事業を行う。

	<p>議題4 (仮称)こどもの総合支援センターについて</p>
事務局(富田)	<p>(仮称)こどもの総合支援センターについて、新市建設計画では「子ども家庭支援センター」と「こどもの発達支援センター」の機能を統合した施設とし、延床面積は1,500m²程度としている。</p> <p>平成15年度予算は基本設計となっているが、どういう形でつくるかという基本設計のための「基本計画」を、8月までにこの策定委員会でまとめてもらいたい。なお、平成16年度は実施設計と用地取得費となっており、平成17・18年度の2年間で建設し、平成19年度に事業を開始する予定である。</p>
古荘委員 事務局(牧野)	<p>どのような根拠で、延床面積が1,500m²程度となったのか。</p> <p>新市建設計画ですでに財源が決まっており、その財源から延床面積は1,500m²程度と考えている。(仮称)こどもの総合支援センターは、子ども家庭支援センターとこどもの発達支援センターを統合した施設という位置づけになっており、「ひいらぎ」を吸収し、子ども家庭支援センターを付設することが決まっている。</p> <p>今回提示したものはひとつの案である。「基本計画」は子育て支援計画の中核的なものになると思うが、策定委員会で「基本計画」をつくってほしい。保育園、児童館、既存施設間でどのようなネットワークをつくっていけば良いのか、センターを核にしながらいずれも既存施設をどう再構築したら良いのかなどは、子育て支援計画のテーマに関わってくる問題である。また、データブックの作成段階でひいらぎの職員や利用者等の意見を聞いているため、それらを踏まえて考えてほしい。さらに、「ひよっこ」と「ひいらぎ」の関係性をどのように扱うかも視野に入れて議論してほしい。</p> <p>「基本計画」「基本設計」の段階でそれぞれ市民参加を行いたい。策定委員会である程度整理できた段階で市民の意見を聞きたい。市民参加の場合、市民に意見を聞き、それを返さなければならぬため、最低2回行う必要がある。</p> <p>場所は、現検討中で、9月までには目途をつけたい。</p>
森田委員長	<p>(仮称)こどもの総合支援センターについて、「子ども福祉審議会」と「子育て支援計画策定委員会」の役割分担はどうか。この策定委員会は「基本計画」策定の場と考えて良いのか。</p>
事務局(牧野)	<p>基本的な理念は審議会で決定するが、市長が子育て支援計画の策定をこの策定委員会に依頼している形なので、ここで「基本計画」を作成し、それを子ども福祉審議会に報告すれば良い。</p>
	<p>議題5 今後のスケジュールについて</p>
事務局(田島)	<p>8月末までに策定委員会で計画を策定してもらいたい。策定委員会は4回で、その間に作業部会が1回ずつ入る。策定委員会で出た意見等を作業部会でまとめ、それを次の策定委員会に出すという進め方のため、策定委員会と作業部会を交互に予定している。策定委員会と作業部会の間、庁内関連部署との調整を事務局が行う。</p> <p>市民の意見を取り入れ、子どもの意見も反映させたいため、市民と語る会を2回、子どもと語る会を4回予定している。</p>
森田委員長	<p>8月まで4箇月程度しかなく大変だが、4回の委員会は確保したい。総合計画等全体の計画と調整を図りながら、8月までには計画を完成させたい。</p>
	<p>議題6 子育て支援計画にかかる課題について</p>
森田委員長	<p>本日は子育て支援計画に向けての課題を確定したい。</p> <p>データブックの表紙に、子ども達の版画を使用した。</p> <p>データブックの見方だが、例えば、市民が地域で様々な形で展開している活動を集約したものが53ページの地域活動データで、市が取り組んでいる施策・事業が52ページの施策・事業データである。地域活動や市の取り組みの結果が具体的なデータとして調査結果に現れ、それが51ページのポイントにつながっている。なお、配布した資料のポイントはデータブックのポイントに対応している。このポイントを軸に課題を明確にしていきたい。</p> <p>策定委員会のこれまでの成果、子ども福祉審議会からの提案、西東京市の変遷、関連施設のマップを後半に載せている。</p> <p>データブックについて、感想・意見等をうかがいたい。</p>

安藤委員	「はじめに」で方針等がしっかり書かれているので分かりやすく、「子どもの権利条約」を載せているのも良い。
古荘委員	周りの人達もこれからに期待している。
片山委員	自分の住んでいる区では、こういうデータブックが手に届いたことがない。良いものができた。大学の授業でも使えそうだ。
武田委員	立派な資料だと思うが、このデータブックから課題を洗い出すまでに、委員会が4回しかないのは厳しい。
森田委員長	今まで認識していたことと、改めてデータブックで洗い出されたものを見て、気がついたことはないか。
武田委員	行政の枠内ですることができることはたくさんあるし、結果としてできてしまうものもある。しかし、市民に何らかの思いがあったことと、行政はそれを捉えていないが、結果としてできたものとの間には、ズレがある。それらが調整され、一つの形になれば良い。
森田委員長	データブックの内容で使えそうなものが多いが、普段これらに気づくのは大変な作業である。それらをどのように市民へ発信するかが課題だと思う。
森田委員長	市民として、具体的なニーズを制度の中で実現していく際に、橋渡しができそうである。今あるものだけでも、データブックを見ることで市民が感じることができ、具体的な施策につなげていくことはできそうだ。この策定委員会でその整理ができれば良い。
有澤副委員長	データブックの配布先はどのようになっているのか。市民がこのデータブックを読むのは大変だと思うが、要約したものを作成する予定はあるか。
事務局(田島)	(仮称)こどもの総合支援センター構想の大枠はかなりのものができているが、この策定委員会の議論がどのように活かされるのか。 市議会委員、庁内関連部署、施設見学で協力してもらった施設、ヒアリングに応じてくれた方、掲載記事で協力してもらった方(15名)表紙の版画を提供してくれた小学生(11人)に配布する。情報公開用として、保谷庁舎と田無庁舎の情報公開コーナー、市内6つの図書館にそれぞれ2冊ずつ配布する。 200冊印刷したが、すでに在庫はなく、500冊増刷する予定である。その後で、市内施設、私立幼稚園、公立小中学校、NPO アンケートに答えてくれた方、市民委員に応募し11月の会議に出席してくれた方にも配布する予定である。さらに、他の計画策定委員会のメンバーにも配布し、最終的に150冊程度が残る予定である。 5月15日の市報に掲載する予定で、市のホームページでも閲覧できるよう、広報課と調整している。
森田委員長	データブックを概要版にすることは難しいが、良い提案があれば議論したい。
事務局(牧野)	(仮称)こどもの総合支援センターについて、何をこの策定委員会で議論すればいいのか。 「ひいらぎ」の老朽化を考慮し、「ひいらぎ」の吸収、子ども家庭支援センターの統合、財源から延床面積を1,500m ² 程度とする。 公立保育園の民営化に向けた方向性等、その他のことについてもこの策定委員会で議論してほしい。
武田委員	子ども家庭支援センターは平成15年にコール田無に開設され、(仮称)こどもの総合支援センターが開設されれば、そちらに移るのか。
事務局(牧野)	子ども家庭支援センターはコール田無に暫定的に開設するという形になる。その後、(仮称)こどもの総合支援センターへ移る。
森田委員長	子ども家庭支援センターは、平成16年度までに都内の各自治体でつくらなければならない。
川又委員	子どもに関係する部署がたくさんある中で、これだけの内容を網羅したデータブックができたのは画期的である。縦割りの役所の中で、子育て支援課が色々な調整をできる部署だということが分かった。
出川委員	ヒアリングやアンケート調査結果を見たときに、市は何もしていないのではと思ったが、よく調べると色々な事業を行っていることが分かった。しかし、市民がそれらを把握していないということは、情報提供の仕方にも問題があると思う。したがって、情報提供について考える必要がある。データブックはよくまとまっている。

森田委員長	時間内で議論を尽くすことは難しいため、各自、ポイントから課題を抽出し、それを作業部会で調整するというやり方にしたい。
安藤委員	市長には既にデータブックを提出した。
森田委員長	子どもの目線で見えていった場合、気になる部分等がポイントに挙げられていない。それらの調整をどうするのか。
森田委員長	細かいところまで挙げた方が良いものと挙げられないものがある。気がついた課題は何でも出し、その後で調整すれば良い。可能な限り、本計画に盛り込んでいきたいが、盛りこめないものは他の策定委員会に持っていくという方法もある。
有澤副委員長	次の作業部会が5月1日なので、課題を埋めたものを24日までに事務局まで出してほしい。個別に書き込めない場合、その他という形でもよい。
森田委員長	福祉分野以外の教育やまちづくりなどは、この策定委員会の答申に出してよいのか。
事務局(牧野)	子育て支援計画を社会福祉領域だけと捉えるのか。現在は、教育、保健医療、まちづくりなどの関連領域を取り込んで議論しているが、全面的に取り込めるわけではない。どの程度取り込むかというバランスの問題だと思う。
森田委員長	気づいたことはすべて出してもらって良い。現在、各計画の策定が同時に進んでおり、それらの計画を調整するプロジェクトを庁内で立ち上げようとしている。
有澤副委員長	次世代育成支援計画によって、平成17年度から5年間の計画を各自治体で作成しなければならない。働き方、住まい方への配慮を加えた形でつくらなければならない。エンゼルプランの基本的な考え方は、子どもと子育て家庭に関わるあらゆる分野を入れ込んで、少子社会を克服する重要な柱にするというものである。
森田委員長	子育てに関する長期的な国の計画、都の計画、市の計画をそれぞれ整理してもらい、本策定委員会の位置づけが知りたい。何年度にどのようなものができ、何年度にどのようなものを見越しているのかなどが分かれば良い。
森田委員長	次回の委員会で資料が出せるようにしたい。ただ、都の影響はあまりないと思う。国の計画の中で、西東京市の計画がどのようになっているのかが分かれば良いのではないかと。
森田委員長	「1. 子ども参加」について意見はないか。
武田委員	親と子どもの意識にズレがあることが気になる。親はそれを理解しているのだろうか。18歳くらいの子は、モノを言わないことが多いが、言わなければいけないものがある。
安藤委員	例えば、子どもが外に出ないという実態がある。外に出すには安全が確保されていることが必要で、安全という観点も出てくる。
森田委員長	「2. おとなになることを支える」について意見はないか。
武田委員	大人になりたいかどうかという問題があると思う。こういう大人になりたいと思うようなモデルがないと、大人になりたいとは思わない。魅力ある大人像に触れる機会が必要である。
川又委員	例えば、これらの対応をどの部署がするのか。それが体系だっていないため、全体像が見えない。
森田委員長	役所の体制をどう考えるのかも議論の対象となる。西東京市は児童青少年部が行うのか。このことについてもコメントが必要である。
安藤委員	スイスの障害児学級では幼児からパソコンを教え、大人になったときに同じ場所で仕事ができるよう保証している。大人になることを支えるというなら、将来の保証についても考える必要があると思う。
古荘委員	「今の子ども達は体の成長は早くなっているが、精神面の成長は遅れている」と娘の中学の保護者会で言われる。
武田委員	日常生活で不足するものがない。与えすぎたことが精神的に育たない状況にしている。休憩時間と授業時間の区別がつかないなど、とにかく子ども達を見ていると幼稚である。
森田委員長	「大人になる」という年齢をどのあたりに設定するのか。外ではバリバリ仕事をしていても、家に帰ればその家の子どもになってしまっている。
森田委員長	子育て支援計画では18歳となっている。

片山委員	中学生のときに抱く、早く大人になりたいという憧れは、外見上のことであって、中身はそれに追いついていかない。中身が大人ではないということをいつ気づくかで、差が出てくると思う。
森田委員長	色々考えている18歳もいれば、何にも考えていない20歳後半もいる。昔と比べて差が大きくなっている。
片山委員	学生も年々違ってきていると大学の職員等も言っている。
有澤副委員長	今の子ども達は、昔に比べて情報量が多く、難しいことも知っている。その面では昔の子どもの方が幼稚である。しかし、自分が社会的に責任を持って生きていく、というイメージを持っているかというところがそうではない。それは、子どもだけの責任だけではなく、親、周りの大人、社会状況の問題もある。今は社会的責任を果たしていく大人を育てるという自覚が乏しいと思う。全体的に過保護になっている。
安藤委員	真剣に何かを求めている部分もあるが、思っていることと実際にやれることは別で、それをどう支援していくかということが重要である。
事務局(牧野)	例えば、居場所の問題で、中高生は飲食ができる場所が欲しいというものがあるが、個人的には公共施設では飲食しない方が良いと思う。そのような意識のずれが様々な場面で出てくる。
森田委員長	今の子どもは当事者になりたがらない。子どもが当事者になる場面をつくった方が良い。一人ひとりの人間が、様々な場面で当事者になり、自分で判断し、行動し、責任をとらなければいけない時代だと思うが、その手本となるべき大人自身が当事者になっていない。
森田委員長	「3. 子育て家庭の支え合い」についてはどうか。
武田委員	「支えなど必要ない」と言う人達にどのように対応していくのか。
森田委員長	困っている人は誰かに助けてもらいたいと思っている。助け方を何段階も用意しなければならぬと思う。色々なパターン、多様なものを用意していく必要がある。
武田委員	行政施策は要らない、お金をくれという意見が結構根強い。
有澤副委員長	それは、課題や状況を認識できていないだけであって、それを気づかせることが必要である。
森田委員長	保護者と話していると、支えあっている人達は、自分の親がそうしていたので、自分たちも支えあいをしているらしい。逆に、支え合いをしていない人達は、親の姿を見ていない人ではないだろうか。自分の親だけがモデルにならないよう、どこかで行政が手を入れ、若い子に支え合いを学ばせるシステムをつくる必要がある。それらを答申に盛り込んでいきたい。
森田委員長	「4. 市民参加型の子育ちと子育て家庭支援」についてはどうか。
武田委員	行政ができること、行政ではやれないこと、市民レベルでやらなければならないことなどについて整理をしなければならない。行政が得意な部分と市民が得意な部分がありそうで、これがポイントになりそうな気がする。
森田委員長	ひいらぎのヒアリングの際も、訓練施設があれば良いと思っていたが、同じ年代の人達と関わりたいという意見も多かった。どちらかということではなく、両方用意しながら子どもを育てていきたいという意見が強い。しかし、どちらもということは、あいまいさを残していかなければならないので難しい。
森田委員長	色々な人が出会う場だとかリ・ダ・養成が必要。
有澤副委員長	学校側の考え方はどうか。学校が地域活動の拠点になっていくということが基本的ラインで良いのか。
森田委員長	学校は地域において信頼されており、学校が核になってやるのであれば協力するという住民は多い。
森田委員長	学校側として、学校が担っている部分を手放したいというのは確かか。例えば、部活動を地域に委ねたいとか、役割を分担するという方向性は出てきているのか。

<p>有澤副委員長</p> <p>森田委員長</p>	<p>役割を分担するというより、皆で力を合わせて育てていこうという方向性だと思う。学校がやっていたものを、地域、家庭とともにいう視点で、色々な整理が行われている。</p> <p>市民がどのように関わっていくかということについて、行政の役割と市民参加型が実現できることを頭に入れながら考えていきたい。</p>
<p>議題7 その他</p>	
<p>森田委員長</p> <p>事務局(田島)</p> <p>森田委員長</p> <p>事務局(富田)</p> <p>事務局(田島)</p>	<p>今後の日程の確認をしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9回策定委員会 5月8日(木)10:00～ ・第10回策定委員会 6月19日(木)10:00～ ・第11回策定委員会 9月4日(木)10:00～ ・作業部会 5月1日(木)13:30～ ・市民と語る会 5月23日(金)午前と夜 <p>現時点では議会の日程が分からないため、6月19日に予定を入れておく。8月の策定委員会は最後の確認になるため、8月下旬か9月上旬が良いのではないか。</p> <p>施策ができてからより、市民の意見を聞いて計画をつくっていく方が良いと思うため、市民と語る会を早めに開きたい。金曜の午前中と夜にやりたい。例えば、午前中はピッコロハウスで開催するというのはどうか。子どもの施設を使っている人が来やすい方が良いのではないか。夜は田無庁舎でよいと思う。</p> <p>子どもと語る会についてはこれから相談し、日程が確定したら皆さんに案内したい。</p> <p>今年は、市民と語る会の後に策定委員会は行わない。</p> <p>今回は課題をある程度確定したい。</p> <p>資料 資料 については、あくまでも(案)なので、外部には出さないでいただきたい。</p> <p>検討資料をメールで欲しい方はアドレスを教えて欲しい。また、拡大した資料の送付を希望する方には資料を送付する。</p>